

# 平成30年7月豪雨における被害認定調査の効率化・迅速化手法について①

航空写真等を活用して現地調査を実施せずに「全壊」と判定(全部流失等)



【被災前（2007年10月6日）】



【被災後（2018年7月9日）】

＜岡山県倉敷市真備町＞

# 平成30年7月豪雨における被害認定調査の効率化・迅速化手法について②

基礎が損傷している場合、  
簡易に「全壊」と判断

木造・プレハブ

基礎のいずれかの辺が全部  
破壊しており、かつ破壊して  
いる基礎直下の地盤が流出、  
陥没等している場合



【平成29年台風18号等での  
基礎・地盤被害による住家被害の例】

土砂等が一様に堆積している場合、  
堆積の深さで判定


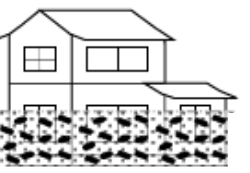


- 床上1mまで ⇒「全壊」
- 床まで ⇒「大規模半壊」
- 基礎の天端下25cmまで ⇒「半壊」



【平成29年九州北部豪雨での  
土砂堆積等による住家被害の例】

# 平成30年7月豪雨における被害認定調査の効率化・迅速化手法について③

## 浸水深による簡易な判定が可能

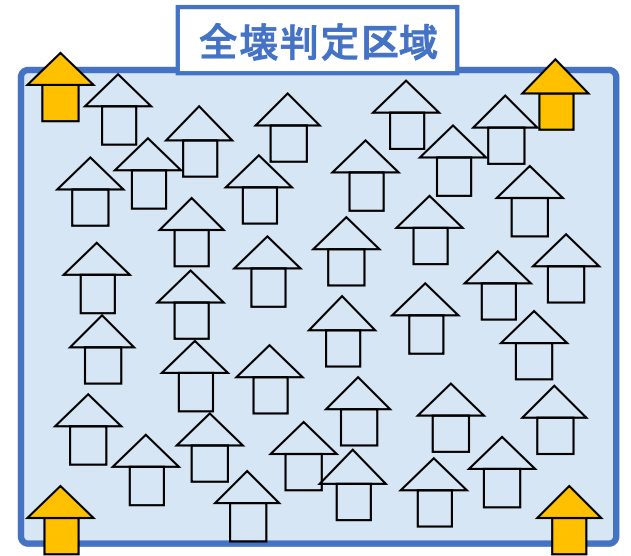
	住家流失 又は 床上1.8m以上の浸水 (浸水深の最も浅い部分で測定)	全壊
	床上1m以上 1.8m未満の浸水 (浸水深の最も浅い部分で測定)	大規模 半壊
	床上1m未満の浸水 (浸水深の最も浅い部分で測定)	半壊
	床下浸水 (浸水深の最も浅い部分で測定)	半壊に 至らない

堤防決壊等により外力が作用したものと判断  
外力が作用したものと判断  
浸水したエリアは

## 住家毎でなく区域で判定が可能

床上1.8m以上浸水したことが  
一見して明らかな区域

区域の端部の住宅のサンプル  
調査で区域内の住家全てを  
「全壊」と判定



↑ : 床上1.8m以上の浸水を調査する住家

【端部調査による判定イメージ】



# 平成30年7月豪雨における被害認定調査の効率化・迅速化手法について④

## 外観による「全壊」の判定



【一見して住家がすべて倒壊している場合】



【一見して住家がすべて流失している場合】